

## 令和3年度亜熱帯緑化事例発表会 審査講評

### 『沖縄に適したチューリップ栽培とその普及』

亜熱帯気候区に位置する沖縄では、世界的にポピュラーな花卉の栽培が難しいことが知られています。しかし、これらの中には栽培法を工夫したり、品種を選べば栽培できる可能性があり、栽培方法を確立できれば都市緑化に使える植物の幅が広がることが期待されます。今回のチューリップはまさにそのような植物の1つです。富山県の花弁球根農業協同組合との連携の下、平成25年度から実験に着手し、累計114品種を試験した結果、6品種を除けば、土の温度を上げないなど栽培環境を整えることによってある程度は栽培可能で、特に早咲きの品種は沖縄の気候条件に適していることが示されました。こうした結果に基づいて、海洋博公園の熱帯ドリームセンターでは、チューリップ花壇を安定して展示することができるようになり、さらにこの栽培に関するノウハウを地域住民に還元しました。令和2年度には本部町内の小学校で栽培教室を実施し、花を咲かせることができるようになりました。このように、亜熱帯の気候を生かして温帯の花弁をどこよりも早く開花展示する方法を確立し、それを普及させた点が高く評価されました。一方で、開花後の球根を肥大させて再び開花につなげることは今のところできておらず、この点が沖縄での累代栽培を行う上で解決すべき課題です。今後のさらなる栽培技術の開発を望みたいところです。

(令和3年度亜熱帯緑化事例発表会審査委員会)